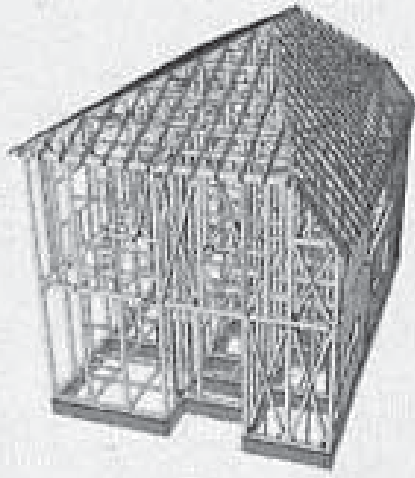
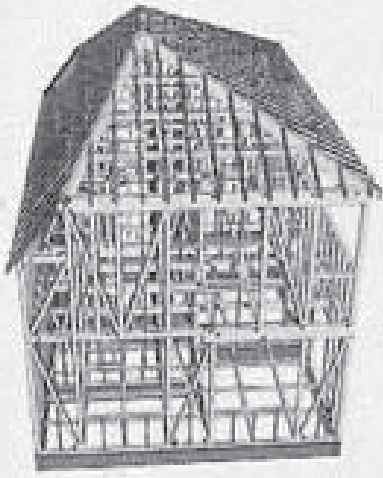


振れ隅谷木梁が狭小住宅で効力

ネットイーグル



振れ隅木梁を使った住宅

具体的に「異勾配の寄棟」は、振れ隅谷木端部（上端、下端）、振れ隅谷欠、振れ隅谷木梁ケラバ、振れ隅谷木大入れ（上端、下端）、対振れ隅谷木梁蟻、対振れ隅谷木大入れのなかには、地価が

異勾配の寄棟、3階建てでニーズ

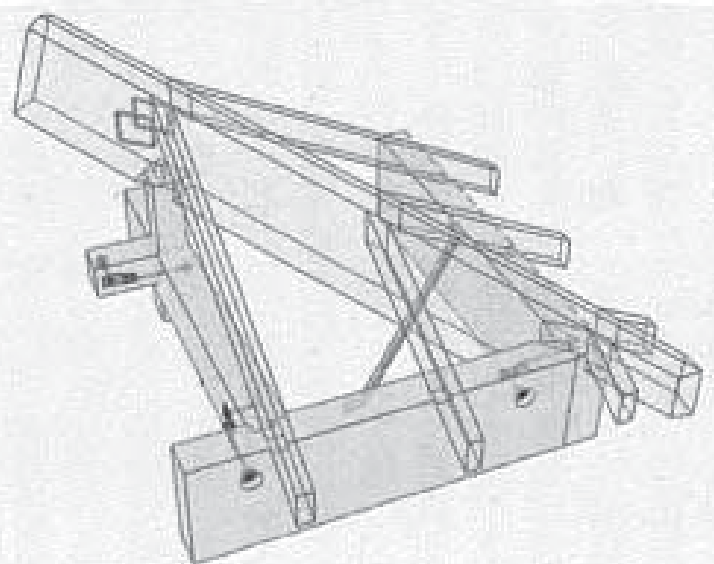
ネットイーグル（福岡市、祖父江久好社長）がCAD/CAM対応した「振れ隅谷木梁」の特殊加工が都市部の住宅を手掛けるプレカット工場に好評だ。都市部では相続税対策や住宅密集地対策で狭小地の3階建ての建設が増えており、CAD/CAM加工で急勾配の屋根（異勾配の寄棟）を実現できれば、斜線規制をクリアしながら最大限に空間を確保した設計が可能になるからだ。振れ隅谷木は墨付けできる職人も少なく、プレカット工場の差別化アイテムとして注目されている。

「異勾配の寄棟」は特殊加工のなかでも難易度が高く、ベテランの職人でも墨付けできる人材は限られる。このため、加工費も高くなりがちで、これまでニーズはあっても敬遠されがちだった。

だが、木造3階建て住宅の建設は都市部を中心に活発で、パワービルダーや地域ビルダーのなかには、地価が

高く、土地の確保が難しい地域をあえて選んで3階建てを建築、分譲することで、都心に回帰しつつある1次取得者の需要をつかんでいる会社もある。

これまでは設計や加工の難しさ、コスト面での折り合いの難しさから、空間確保を犠牲にして建てるケースも少なくなかったが、C



振れ隅木梁の加工パース図

祖父江社長は「登り梁や斜め梁、隅谷木などバージョンアップのたびに特殊加工の幅を広げ、プレカット工場の要望に応じてきた。合理的に実現できるようになってきた。」

た。これからは職人不足に対応できるCAD/CAM特殊加工を最先端で実現していく」と話す。